

# 四谷の

# 千枚田だより



第 244 号



## 令和五年を振り返って

記憶を記録に：

一月二十三日、鳳来寺小四年生九名、五年生十一名 田越し&田んぼ跳び(校外学習の一環としての稲作体験学習は五年生で、この日の田んぼ跳びが四年生の引き継ぎでもあり、一生の思い出づくりでもある)。二十八日、外来生物「ヌートリア」四谷地内合戸川で捕獲。同種は外来種で年二回、平均五頭を産む。九月に古宿の田んぼで幼獣を確認(写真あり)。二月十四日、農林水産省「つなぐ棚田遺産」未来へつなぐ部門で(株)丸八製菓に感謝状贈呈。同社からは四谷の千枚田の未来継承、環境保全に大きな協力(千枚田五平餅として古米の買い上げ、絵画コンクール、リアル案山子、千枚田盛り上げ隊など)を得ている。二十三日、愛知県広報紙「愛知の扉 改訂版(英語 中国日本語版)」写真協力。二十六日、被害対策侵入防止柵設置。三月七日、千枚田 パンフレット 簡易版更新六千部。十三日、コロナ禍 マスク解除(個人の判断)。十七日、四谷の千枚田振興協議会総会 鳳来総合支所二十九日、「ふれあい広場」手すり補修(ふるさと指導員活動支援)。四月五日、(株)横浜ゴム新城工場 新入・幹

部社員研修(三十一名)。十四日、ケーブルテレビ「B.M.K.が行く」放送。二十六日、保存会 書面総会。五月一日、鳳来寺小 代掻き(十一名)。六日、愛知東農協こども農学校 田植え(七十二名)。八日、鳳来寺小 田植え。十一日、豊橋調理製菓専門学校 田植え(二十一名)。十四日、ヤマサちくわ 田植え(社員研修)。十八日、朝日新聞「千枚田 水面映える鞍掛山」掲載。二十二日、東海農政局長訪問 老朽化した施設整備(農道など)の要望。六月一日、豊橋調理製菓専門学校 田の草取り&梅取り。一日、刈谷市「かきつばたを守る会」(三十四名)視察対応。一日、東三河に線状降水帯 観測史上最高。三日、お田植感謝の夕べ「四年ぶりに開催。八日、市内八名小野外学習指導。十三日、朝日新聞(日本の旅辞典)写真資料提供。十六日、鳳来寺小「田んぼの生き物調査」。七月五日、名古屋市職員共済組合ニュース資料提供。十四日、国際協力機構(J.A.C.K.)の現地研修会「アフリカ地域 稲作振興のための中核的農学研究者の育成」の一環として「四谷の千枚田の稲作」と題して南アフリカ諸国農学研究者の研修の受入れ(コンゴ、マダガスカル、セネガル、ウガンダ、ザン

ビア、エチオピアの六か国八名、通訳とも計十名。十六日、リアル案山子設置(設楽町のチームTAKO作成、今回が七回目)。十八日、エコネット安城 視察研修(十八名)。廿日、梅雨明け。二十七日、デジタル書籍「日本棚田紀行」時事通信社刊行協力。二十七日、雹混じりの雷雨 水不足が一気に解消。八月二十五日、毎日新聞社取材対応、二十七日掲載(動画も)。二十九日、「マツケン散歩」東海テレビ放送。九月十三日、(株)横浜ゴム新城工場「地域貢献活動」外来植物抜根駆除作戦(アメリカセンダンソウ、セイタカアワダチソウほか)継続事業。十五日、鳳来寺小稲刈り。十五日、「四谷の千枚田だより」発行二十年、二百四十号達成(継続は力なり〜止まぬ雨はない)。十九日、「施設整備について」緑ネット、県土連、県新城設楽農水建設課。廿日、県農水職員研修。二十七日、(株)横浜ゴム新城工場 パワートレイル沿道清掃奉仕(地域貢献活動)十五名。十月一日、奥三河パワートレイルエイドステーション運営協力。二日、豊鉄バス四谷千枚田線休止に伴いデマンドバス実証運行。四日、豊橋調理製菓専門学校の脱穀(東海農政局五名視察。後日、農政局弔に掲載される。十日、内閣府地域活性化伝道師認定(継続)。十二日、オオスズメバチ駆除(危険度順最大にして最悪)命がけで男の最高な遊びを実感した。十八日、絵画コンクール審査会(応募者数四百六十一名)最優秀賞五名、優秀賞十名、入賞三十

五名。賞品は順位に応じ本年度・図書券などをお届けした。一月から道の駅「したら」で全点展示。二十五日、三十一日、「おてつたび」中部電力社員研修(計二十三名)。二十六日、「(株)丸八製菓」古米出荷。二十九日、保存会環境整備 草刈り。十一月十二日、連谷公民館主催「ふるさとウォーキング」与良木く道の駅「したら」〜豊鉄バスで滝上バス停〜徒歩でゴミ収集しながら旧連谷小まで、午後はグランドゴルフを楽しんだ。十八日・十九日、全国棚田(千枚田)サミット(和歌山県那智勝浦町 色川棚田)五名参加。二十三日、新嘗祭(豊川市砥鹿神社)。三十日、奥三河広域連合 手提げ袋のロゴに千枚田の写真を提供。十二月十日、収穫感謝祭四年ぶりに開催(河西 忍とゆかいな仲間 天空のコンサートの協力を感謝)。※十二月末 千枚田カレンダー(株)丸八製菓作成。



## 令和六年能登半島地震

穏やかな元日を迎え、今年こそは「と来福を望んでいた矢先NHK、民放各社からは「命を守るため一刻も早く逃げてください！」などと切迫した口調で避難がアナウンスされた。

元日(月)の午後四時十分頃、石川県能登地方を震源とする最大震度七の地震(令和六年能登半島地震)が発生、甚大な被害をもたらした。被災者、被災地の皆さまには健康に充分お気をつけ、一日も早い復興をお祈り申し上げます。

## 頻発する異常気象

日本では、近年、各地で台風や大雨、洪水、土砂災害等の被害が多発、また広範囲で猛暑が発生、気温は年々上昇傾向で、特に夏と秋にかけて異常高温が多く、また冬の極度な気温低下もある。昔は稀だった異常気象が四季を問わず現れている感がある。

昨年はこの地でも、日照不足、異常高温、線状降水帯等々、気象変動が激しい年であった。そうそう、真冬の十一月に熱帯夜、十二月十日の感謝祭には二十一℃と異常なくめでもあった。日本には世界が羨む「春夏秋冬」四季のある国と評価されているが、ここの所、長い夏と冬の二季になってしまったとは、大げさかもしれないが、実感でもある。

## ふるさと年代記

話題性のあるものを辿ってみた

元禄十四年、連谷集落の各村の石高は大代村四十三石、布留宿村(大代

村枝村)二十三石、大林村三十七石、身平橋村百五石、小野村四十八石、方瀬村六十二石、真菰村二十四石であった。天保七年、春から秋にかけて天候不順で全国的な大飢饉となり山野の雑草まで食べ尽くしたという(天保の大飢饉)。嘉永三年、海老こんにやく製造。明治から大正にかけて「海老こんにやく」の名声を上げる。明治三年、大暴風が年四回も襲い、凶作で米騒動が起き、この地方からも騒動に参加したが未遂に終わった。明治五年、四谷学校が、翌年に海老学校が開校。明治十一年、郡区町村編制法公布で設楽郡を南北に、区町村の名称区域が決定された。身平橋・大代・大林・古宿・四谷村。方瀬・真菰・小野・須山・連合村。西海老・東海老・海老村。山中・湯島・中島村。大石・双瀬・副川村。明治十三年椎茸栽培が盛んになる。明治十六年、養蚕農家が増加した。明治十九年、川売に「製氷場」ができる。明治二十年、「三州馬糞」がこの頃より大正期にかけてピークだった。明治二十二年、海老村となった。明治二十六年、芸者屋四軒、料理屋七軒(芸者が三十人も居たとも聞く)。与良木隧道開削。明治二十七年、海老町と改称した。町制施行可否について愛知県からの詰問に「郡中北部有力なる商店街」なる理由を以て要望。二月十九日をもって、新城町より遅れること五年、田口に先立つこと五年、ここに海老町が誕生、海老村は消失した。鑑みれば、海老の街も伊那街道物流の拠点と

して満ち溢れた繁栄があったことが伺われる。明治三十三年、海老池貝津に仔馬市場が開校。年に七十から百十頭が競られた。明治四十五年に出荷頭数が減少し廃止された。大正五年、町内に電灯が点き始めた。



大正6年連谷小学校卒業記念写真から

昭和四年、田口鉄道が敷設され、海老までが開通、七年には田口まで全線開通となる。海老劇場が設立。昭和十二年、鞍掛山火災、夜十時鎮火。昭和十六年、太平洋戦争勃発。二十年、終結(戦死者三百二十万人)。燃料不足から木炭自動車が出る。昭和二十二年、学制改革により海老中学校が開校(連谷教場は翌年には統合)。昭和二十四年、田口線滝上停留所開設。たばこ耕作組合結成。昭和

二十九、三十年、町村合併に伴い南進派と北進派に分かれ「海老の南北戦争」とまで言われ、凄まじいものであった。(1)海老町・鳳来寺村 (2)海老町・鳳来寺村・長篠村・大野町・七郷村・山吉田村)。昭和三十一年四月一日、鳳来町発足。海老町・山吉田村は九月三十日に加入。この頃の海老の街にはパチンコ屋三軒、ラジオ屋三軒、呑み屋九軒もあり、現在の新城街並みより人通りは多かった。海老劇場は映画館でもあった。昭和三十一年、棚山キャンプ場開設。昭和三十四年、伊勢湾台風。昭和三十八年頃から車の免許を取るのが流行った。昭和四十三年、田口線廃止(与良木経由のバス運行が定着。新城衛生施設火葬場の完成に伴い、土葬が減少した。昭和四十六年、仏坂トンネル開通。昭和五十四年、稲目トンネル一般道路に転用。昭和五十六年、連谷会館竣工。昭和六十年、連谷体育館竣工。平成九年、鞍掛山麓千枚田保存会設立。平成十七年、第十一回全国棚田(千枚田)サミット開催。ニホンジカ出没拡大。平成二十七年、連谷小学校閉校(百四十四年の幕を閉じた)。平成二十九年、海老バイパス開通。令和五年、豊鉄バス四谷千枚田線休止に伴いデマンドバス実証運行。

行 令和六年一月十五日

鞍掛山麓千枚田保存会

発 文 責 小山舜二